



# ダックスフンドで気をつけたい病気は？

## ■ミニチュア・ダックスフンドの疾患統計

2008年4月1日から2009年3月31日までにアニコム損保に契約した0～10歳のミニチュア・ダックスフンドは40,940頭で、品種別の割合では最も多い。

犬全体の発症率と比較してミニチュア・ダックスフンドの発症率が高い疾患は、18分類中以下の5疾患であった。

**歯・口腔の疾患 1.6倍、血液・免疫疾患 1.1倍、筋骨格系疾患 1.1倍、神経疾患 1.1倍、生殖器疾患 1.1倍**

【表】

また、筋骨格系疾患のうち、「椎間板ヘルニア」についてその発症率を調査したところ、ミニチュア・ダックスフンドの発症率4.9%は犬全体の発症率1.9%と比較して約2.5倍であることがわかった。「椎間板ヘルニア」の発症率は加齢とともに上昇し、5歳のミニチュア・ダックスフンドでは、6%以上の発症率であることがわかった。

【図】

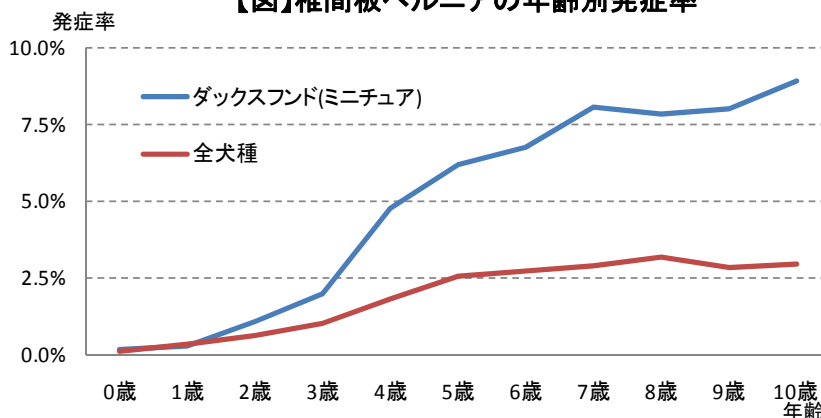
【表】ミニチュア・ダックスフンドと犬全体の疾患別発症率の比較

		(a)ミニチュア・ダックスフンド	(b)犬全体	a/b
		40,940頭	217,150頭	
1	10. 歯・口腔疾患	3.3%	2.1%	1.6
2	13. 血液・免疫疾患	0.7%	0.6%	1.1
3	11. 筋骨格系疾患	9.6%	8.4%	1.1
4	7. 神経疾患	2.8%	2.6%	1.1
5	6. 生殖器系疾患	1.8%	1.6%	1.1
6	3. 消化器疾患	14.1%	15.6%	0.9
7	17. 損傷	3.0%	3.4%	0.9
8	12. 皮膚疾患	16.3%	19.7%	0.8
9	18. 腫瘍疾患	5.8%	7.2%	0.8
10	15. 感染症	0.5%	0.6%	0.8
11	2. 呼吸器疾患	2.0%	2.6%	0.8
12	9. 耳の疾患	16.1%	20.9%	0.8
13	5. 泌尿器疾患	3.9%	5.4%	0.7
14	4. 肝・胆道疾患	1.9%	2.6%	0.7
15	8. 眼の疾患	5.8%	8.6%	0.7

【集計方法】

※ 2008年度にアニコム損保に契約した犬217,150頭(0～10歳)を対象に調査した。  
 ※ 契約満了または死亡解約となった各個体の1年毎の契約について、その契約が開始した年齢毎に1契約＝1頭とみなし、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を発症率とした。

【図】椎間板ヘルニアの年齢別発症率



ミニチュア・ダックスフンドは  
**椎間板ヘルニア**  
 に特に注意が必要！

